



地域なんでも情報局

第13号

平成25年12月9日発行

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

福祉の

共育



チョツピリ緊張気味の子どもたち



横断歩道の場所はわかっていても、目の不自由な方が一人で渡るのには怖いと思う。「など、子どもたちは住み慣れたまちに潜む多くの課題に気づいた様子でした。」

秋晴れの清々しい天気恵まれた10月8日、長崎市立小江原小学校（以下、「小江原小」という。）にて、4年生の児童による「まち歩き&マップづくり」が行われました。小江原小では総合学習の一環として毎年4年生の児童が福祉体験学習に取り組んでおり、春に行われた校内でのアイマス体験や車イス体験を踏まえた発展学習として、自分たちの暮らしのある方々にとってもやさしいまちなのか？ということ児童自らの目で調べながら、思いやりの心を育む学習として取り組まれました。また、この学習には地域住民や児童の保護者にも参画いただくなど、地域を巻き込んだ取り組みとして実施されました。

まち歩き

子ども達は、普段登下校で歩いているコースごとにグループに分かれ、地域の方々や保護者に見守られながら、車イスに乗ったりアイマスクを着けて歩きながらまちを散策しました。「歩道に車が停まっていると、車道にはみ出て歩かないといけないから危ない。」、「溝蓋（みぞぶた）に車イスの車輪がひっかかって動けなくなりました。」、「点字ブロックで



マップづくり

午後から午前中のまち歩きを踏まえてマップづくりに取り組んだ子ども達は、自分たちで撮った写真や気づきを模造紙にまとめました。まち歩きから数日が経ったある日、まち歩きにご協力をいただいた地域の方々や保護者に児童から

一方で、そんな子ども達の様子を見ながら、「頑張ってるね」とやさしく声をかけてくださる多くの住民の方々や、子ども達からのいろいろな質問にもわかりやすく丁寧に答えて下さった派出所の方やお店の店員さんなど、まちの中にはやさしい人が多いということにも気づくことができたようです。

発表会

10月29日、小江原小の体育館で行われた発表会では、グループごとにプロジェクトを使っての概要説明の後、フロアにて完成したマップを使った「ポスターセッション」が行われました。どのグループも発表会のために何度も練習を重ねたことが感じられる素晴らしい発表でした。子ども達からは、小江原のまちの良いところや改善して欲しいところに関する意見だけでなく、小江原を誰もが安心して暮らせるやさしいまちにするために「自分ができること」についてもたくさん意見が述べられました。



堂々とした素晴らしい発表でした！

子ども達の発表を聞いた保護者や地域住民の方々も、今よりもつと小江原を誰もが安心して暮らせるやさしいまちにするために「自分ができることは何か？」を考える良い機会になったのではないかと思います。このような取り組みが、同じ地域に暮らす住民同士、子どもと大人が住みよいまちづくりについて共に学び福祉の心を育む福祉「共育」の機会として、他の地区にも広がっていくことを期待します。

あの人！そんな人！こんな人！



山崎 龍周さん 福田地区

福田地区に在住の山崎龍周（やまさき たつゆり）さんは、社協福田支部の役員や福田地区の民生委員として、一人暮らしの高齢者を対象とした食事会の運営に携わっておられる傍ら、ご自身が住んでいるマンションの自治会の副会長も務められています。山崎さんは、有志の方々と協力して、昨年11月に自治会を発足させました。自治会がないことについて「今までマンション内に自治会がないにもかかわらず、私たちのマンションに住んでいる住民は、福田地区の色々な行事に参加させていただいてくれることを、常々申し訳なく感じていた。（山崎氏）」そうです。そのような中、平成22年度に福田地区で開催した「やってみよう・わがまち座談会」の中で、自治会を作ることの意味合いや大切さが意見として出ていたことが、自治会を立ち上げるキッカケになったとのことでした。自治会加入者はまだまだ少ないということですが、「自治会に入ると良かったと言ってくれる方もいるので、もっと時間をかけて自治会の良さや役割をアピールすることで加入者も増えてくるのではない



みんなで仲良く元気に体操中！

かと思っっています。自治会への加入促進については、気長にゆっくりやっついていくつもりです。（山崎氏）とのことです。また、昨年の8月より、マンション内の共有スペースを活用した「サロン」という。も山崎さんが中心となって運営しています。民生委員の活動で、同じマンションに住んでいる高齢者宅を訪れた際、「一人暮らしで付き合ってもいい。隣近所の顔も分からない。いざ話をすると全部分からない。」といった生の声を耳にしたことがサロンの始めたきっかけのこと。そこで「やってみよう・わがまち座談会」の中で出されてきたサロンをまずやってみようというところで始められたそうです。実際にサロンを始めてみたら、「いつも独りで淋しかったのでこういうのを待っていた。」という喜びの声や、参加者同士がサロン以外の場所でも挨拶をするようになったり、互いの部屋へ遊びに行くようになるなど、サロンをきっかけとした新たな近所付き合いが始まっているそうです。最後に「我々が育った時代と今の時代は変わって来ており、特にこういうマンションでは、扉で完全に仕切られてしまっていて、同じマンションの住民でありながら、エレベーターなどで顔を合わせても挨拶がない。そういうのを嫌いな人もいるかもしれないけど、顔を合わせた時は、挨拶が出来るような関係性をおかないと、何かあった時、話が出来ないから、頼る人がいない。だからこの関係づくりが大切なのではないでしょうか。（山崎氏）」と穏やかな笑顔で語っておられました。

続々と増えてます!



高齢者ふれあいサロン

高齢者ふれあいサロン（以下、「サロン」という。）が市内各地に広がっています。10月に元町で『元町さんぽ』、ダイヤランド2丁目『がんばらんぼサロン』（両サロンとも週1回開催）が始まりました。『元町さんぽ』では、甘酒づくりや茶話会、出前講座や健康体操等、さまざまな活動を行っており、いつも笑いが絶えないサロンで、参加者は毎回20名を超えています。「このまちを活性化したい!」地域のみんなが仲良く、明るく挨拶ができるようなまちにしたい!」という思いからサロンを始めた。代表の井上統（いのおえおさむ）さんは語って下さいました。「参加者のみなさんからは、「サロンでたくさん笑って、笑顔で家に帰ることがいい!」との声があがっているそうです。「みんなが集まってたくさん笑う。参加者のみなさんがいつもと違う一



面、いい表情を見せてくれるのがうれしい」と井上さんは話されました。一方、『がんばらんぼサロン』は、ダイヤランド2丁目の老人クラブが中心となって発足したサロンで、参加者は毎回約15名ぐらいます。グラウンドゴルフや手芸（編み物）、囲碁・将棋等の活動を主に行っていますが、特に手芸（編み物）が参加者に好評とのこと。ダイヤランドといえれば1984年に作られた新興住宅地ですが、30年近く経過し、年々高齢者が増加してきているそうです。「サロンを始めてから参加者のみなさんの意識が上がってきて、何をやるにもみなさん積極的に参加してきている。参加者は少しずつ増えてきているが、もっともつとたくさんの方々に参加してほしい」と代表の築城昭平（ついきしやうへい）さんは話されました。現在、週1回開催型のサロンが長崎市内に25カ所、月に1〜2回開催型のサロンが68カ所あり、年々サロンが増加しています。参加者の皆さんは、お茶会やレクリエーション、趣味の活動、季節の行事など多種多様な活動で楽しい時間を過ごされているようです。サロンが皆さんの元気の源になればいいですね♪

サロン同士も交流中!

この3つのサロンは、毎年地域の交流を兼ねて年2回、合同でふうせんバレーボール大会や、演芸大会を行っています。去る11月20日に牧島地区公民館にて演芸大会が開催されました。当日は、普段からサロンにきている近隣の方々や、少し離れた地区から車で乗り合わせた養護老人ホーム「牧島荘」に入所されている方など、総勢50名を超える参加者がありました。

社協戸石支部では、パークタウンたちばな団地、牧島地区、船津地区の3地区それぞれで高齢者ふれあいサロンが実施されています。



戸石地区合同サロン、演芸大会

午後からは、演芸大会のメインイベントである、踊りやかくし芸など、この日のために練習や準備をしていたさまざまな出し物が披露されました。中でも二人羽織の出し物の時は、二人一組で羽織を着て、羽織をかぶって周囲が見えない人がもう一人の手の代わりをしてお化粧をしましたが、見当違いのところにお化粧をしたりして会場の笑いを誘っていました。



カラオケもバババです♪

あとかき

今年も残すところあとひと月を切りました。富士山の世界文化遺産登録をはじめ嬉しい出来事があった一方、山口・島根豪雨災害や伊豆大島台風災害など今年も大規模な自然災害が発生し、多くの尊い人命が失われるなどの悲しい出来事もありました。今年には皆様にとつて

まずは関係者同士のつながりづくりから

- 情報交換会を開催している
社協支部（ ）は開催頻度
 深堀支部（毎月1回）
 西城山支部（2ヵ月に1回）
 日見支部（3ヵ月に1回）
 小江原支部（3ヵ月に1回）
 高尾支部（3ヵ月に1回）

校区内の団体や関係者が一堂に会する定期的な情報交換会が少しずつ社協支部単位で広がりをを見せています。自治会関係者や民生委員・児童委員、保護司、交通安全指導員、老人クラブ、育友会、育成協、幼稚園・保育園・小学校、福祉施設、病院、警察、地域包括支援センターなど、多くの関係者が一堂に会し、活動報告や校区内で起きている問題の共有等が行われています。この情報交換会の特徴として、ほとんどの地区が全體會を概ね60分以内というコンパクトな時間で行っているということがあります。限られた時間の中で効率よく運営すること、中身の濃い情報交換が出来るようです。参加者からは、「定期的なこのような場が開かれることで、関係者同士が顔の見える関係になる。」「今までは団体ごとの行事が重なったりすることもあったが、このような場があれば互いに行事等のすり合わせもできる。」「お互いの団体を知ることで新たな協働の取り組みが生まれるかもしれない。」「など参加者の評判も上々のようです。



情報交換会



高尾支部の情報交換会の様子

「物事を決める会議も大事だけれど、その会議が始まる直前まで何気なく交わっていたそれぞれの近況報告（世間話を含む）も大事なことだったんだ」ということに改めて気づかされた。」「というある参加者の言葉に、このような情報交換会の意義を垣間見た気がしました。皆さまの地域でもはじめてみませんか?